厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）
神経免疫疾患のエビデンスに基づく診断基準・重症度分類・ガイドラインの妥当性と患者 QOL の検証
分担研究報告書

多発性硬化症診療ガイドラインの作出と髄鞘イメージングによる個別化医療の検討

研究分担者　中原　仁　　　慶應義塾大学　医学部　教授

研究要旨

多発性硬化症の医療水準と患者QOLの向上には、診療ガイドラインの作出による診療の均てん化と、個別化医療の実践が求められる。前者の目的で、日本神経学会が主導する診療ガイドライン作出に関与し、後者の目的で髄鞘イメージングを用いた個別化医療を検討し、以て頭記の目的に資する研究を展開する。

A. 研究目的
多発性硬化症の診療ガイドラインを作出し、医療水準と患者 QOL の向上を目指す。髄鞘イメージングデータを集積し、個別化医療の実践に有用かを解析する。

B. 研究方法
多発性硬化症の診療ガイドラインについてはこれまでの臨床経験や科学的知見に基づき、同作成委員会において意見を述べ議論する。髄鞘イメージングデータについては慶應義塾大学病院に通院中の多発性硬化症患者を対象に当該データを集積する。

（倫理面への配慮）
後者について、慶應義塾大学医学部の倫理審査を受審した上で、該当者の文書による同意を得て、法律その他関連法規を遵守した上で実施する。前者については倫理上の侵害は生じない。

C. 研究結果
診療ガイドライン作出に向けて論点整理など進捗を得た。髄鞘イメージングデータの集積を進めた。

D. 考察
本研究期間内には研究は完了していないが、予定通り進捗を認めており、今後の展開が期待される。

E. 結論
多発性硬化症の診療ガイドライン作出に向けて更なる議論を進め、髄鞘イメージングによる個別化医療の可否についても検証を進める。

F. 研究発表
1. 論文発表
該当なし。

2. 学会発表
1）Noriko Isobe, Masaaki Niino, Takuya Matsushita, Yuri Nakamura, Ichiro Nakashima, Mitsuru Watanabe, Yasunari Sakai, Ayako Sakoda, Jin Nakahara, Izumi Kawachi, Hirofumi Ochi, Yuji Nakatsuji, Yusei Miyazaki, Juichi Fujimori, Kenji Kufukihara, Tatsusada Okuno, Shoko Fukumoto, Fumie Hayashi, Kousuke Yonemoto, Ryoji Taira, Yoshikazu Nakamura, Koshi Nakamura, Kiyomi Sakata, Rinako Shimada, Makoto Matsui, Jun-ichi Kira. Continued increase of multiple sclerosis and neuromyelitis optica and the north-south gradient in Japan; updates from the 5th nationwide survey. MSVirtual 2020. 2020年9月11日. Online.
2）Kenji Kufukihara, Satoshi Kitagawa, Yayoi Sato, Mariko Tanikawa, Junichi Hata, Shigeaki Suzuki, Masaya Nakamura, Hideyuki Okano, Jin Nakahara. q-Space Myelin Map imaging for longitudinal analysis of remyelination in multiple sclerosis patients treated with dimethyl fumarate. MS Virtual 2020. 2020 年 9 月 11 日. Online.

G. 知的財産権の出願・登録状況
該当なし